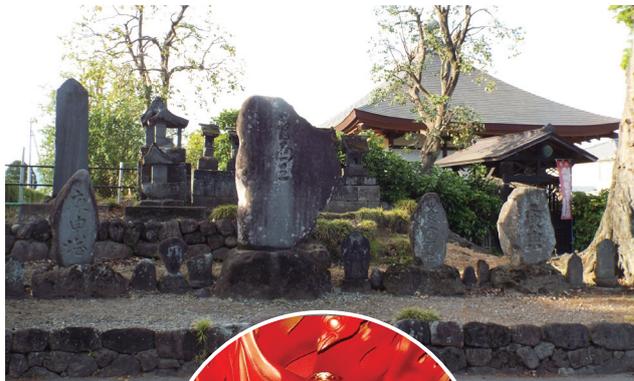


いにしえ  
キラリよしおか古語り ⑬



下野田の中央に華蔵寺と野田神社があります。華蔵寺は本山修験宗、総本山は京都の聖護院門跡。ご本尊様は、青色不動明王、火災には火の鳥が彫られています。藤原氏南家の末裔である、伊豆の狩野忠永によって1519年に開山されました。

忠永は、享徳の乱の後、文明9年(1477年)長尾景春を鎮圧すべく、上野の国に軍を進めた。その後、援軍を仰いだ上杉顕定と古河公方の成氏との間に和議が調い、白井城に入った顕定の命により忠永は、越後と関東を結ぶ兵站上の要害の地に狩野一族を配置した。延徳3年、北条早雲に伊豆を侵略され、忠永は佃村に屋敷を構え隠れ修験になり華蔵寺と号した。その後、忠永は野田村の地に華蔵寺と稻荷神社を創建し、祈願所として大いに栄えた。明治維新後、

「華蔵寺の百庚申は百字百様」

神仏分離令により稻荷神社を分離、神社合祀令により旧野田社、八幡宮、日枝社の合祀により、村社・野田神社となる。

華蔵寺8世の歎浦上人は、国学者であり書の収集家でもありました。残された書物は獅子園書庫として、吉岡町重要文化財に指定されています。弟は無幻道人で光格天皇に千字文を奉呈する光栄に浴しました。

華蔵寺にある無幻道人の石碑は、吉岡町の郷土カルタに「華蔵寺の百庚申は百字百様」とうたわれています。石碑の中央に青面王と深く刻まれ、まわりに庚申の文字が百字百通りの字体で書かれているのがいわれています。赤城神社の赤い大鳥居に掲げられている「赤城山」の扁額も無幻道人の書です。

参考文献：吉岡村誌

編集後記

その昔、教養課程での地質学講義で「万能な溶媒は？」との教授の問いかけに、有機溶剤の名が種々上がるが、その答えは意外にも「水」思えば太陽系で地球は唯一、表面に「液体の水を持つ天体でもある」。

「四大文明」は、大河流域の農業地帯に誕生した。今時、我が家の東に広がる漆原田圃は、利根の水を受け稲と化す。白い雄大な風車が、稲田の緑に際立つ。この雄姿も今年が最後かと思うと、感慨もひとしおである。

生活に潤いをもたらす水も、時に集中豪雨などで被害を及ぼす。平素からの備えの大切さを、人は過去の災害から学んだ。自然への畏敬の念を胸に、まずは水に感謝。

本だよりを読んでくださることに、また感想を寄せてくださることに感謝しつつ、広報誌作りに励んでいきたい。(五十嵐善一)

編集委員

- |       |        |
|-------|--------|
| 委員 長  | 金谷 康弘  |
| 副委員 長 | 村越 哲夫  |
| 委員    | 高山 武尚  |
|       | 竹内 憲明  |
|       | 五十嵐 善一 |
|       | 大林 裕子  |
|       | 富岡 大志  |

発行 吉岡町議会  
責任者 議長 馬場 周二  
編集 議会広報常任委員会

群馬県北群馬郡吉岡町大字下野田560  
0279-5413111